

賀露地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日 時 平成28年11月30日(水) 19:00~20:20

2 会 場 賀露地区公民館

3 出席者 地元出席者 75名

市側出席者 15名

深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、田中企画推進部長、久野地域振興局長、綱田都市整備部長、澤田環境下水道部長、一村中核市推進局次長、谷村農林水産部次長、森山危機管理課長、渡邊秘書課長

<事務局>福島協働推進課長(司会)、岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、北村協働推進課主事

4 中核市移行についての説明

(中核市推進局次長) ※チラシに基づき説明

5 都市計画マスタープランについての説明

(都市整備部長) ※チラシに基づき説明

6 地域の重要課題について

1 賀露地区の臭気指数規制基準の見直し結果について

<地域課題>

平成24年の賀露地区地域づくり懇談会で、竹内市長が規制基準の見直しを約束しました。その約束に基づき、見直しのための第1回の環境審議会が本年7月に開かれています。

賀露地区地域づくり懇談会が開催される11月30日までは、市長に対して審議会答申が行われることは生活環境課に確認しています。

賀露地区まちづくり協議会が、町民を対象として行ったアンケート結果では、悪臭問題が一番の関心事でした。

町民が一番関心を持っている悪臭問題に対して、規制基準がどのように見直しされたのか、地域づくり懇談会の場で賀露町民に説明してください。

<担当部局の所見等>

【環境下水道部】

環境審議会を計4回開催しました。そのうち、第2回審議会は賀露地区に出向いて開催し、ジェイエイ畜産の説明と、住民の方から現状とご意見をお聴かせいただきました。

また、夜間の臭気測定を行うなどし、実際の臭気がどのくらいの指数になるか自治会に立ち会っていただき、感じていただきました。

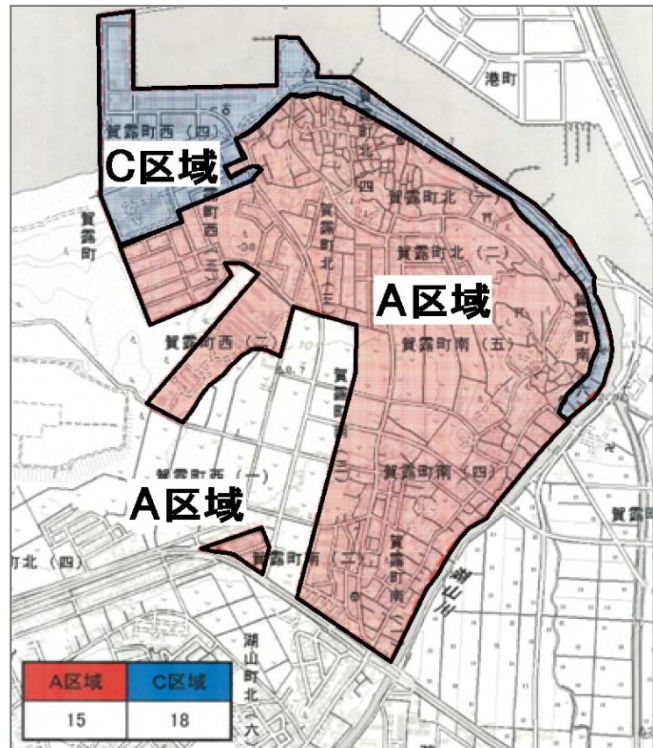
その結果と自治会の調査の結果をもとに審議会において審議された結果、A区域が住居地域であることも考慮し、住民の安心・快適な生活のため、臭気指数を14とする答申を受けました。

附帯意見として、3点ありました。

①年々臭気が減っていることから、ジェイエイ畜産としても前向きな改善を行っているとは評価できるが、今後も引き続き改善に向けての不断の努力が必要と考える。特に夜間の臭気について原因解明及び対策を強化すべきである。また、夜間の臭気測定を引き続き実施されたい。

②今後も鳥取市の臭気測定にあたり、賀露町内会の意見を取り入れるとともに、自治会の臭気調査を引き続き尊重すべきである。

③賀露自治会、ジェイエイ畜産、鳥取市の三者による臭気対策会議を開催し、今後も現状を正しく認識し、良好なコミュニケーションに努め、問題解決に向け検討協議を続けるべきである。



(環境下水道部長)

7月12日に市長から賀露地区の臭気指数規制基準の見直しに関する諮問を受け、環境審議会が4回開催されました。特に、8月4日の第2回審議会では委員の皆さんに賀露地区に直接出向いていただき、ジェイエイ畜産の現状や臭気対策の取り組み状況を視察していただきました。少しにおいては弱かったのですが、臭気の収集状況、測定状況を見て感じていただいた後、賀露地区公民館で審議会を開催し、住民の方々からのおいの現状や意見を直接伺いました。

臭気測定は、通常7月、8月、9月の間、月2回・日中の測定を予定していましたが、今年は測定予定日に雨が降ったりしたため、月1回・日中の測定になりましたので、合計3回の定期測定結果が出ています。いずれも指数は11以下で、全て基準以内でした。しかし、自治会が実施されている調査結果などから、日中より夜間の方がにおいが強いという意見があったため、今年は10月の夜間に、においの強い場所を自治会の方々に嗅いでいただきました。夜にもかかわらず、多くの住民の皆様と立ち会っていただき、実際のおいと数値を確認していただいたところ、やはり地域の調査結果のとおり、ジェイエイ畜産の北側に当たる西三丁目の境界付近が一番においしました。

審議会では、基準の見直しにあたって現地の実態調査や地区住民の意見の聴き取りを行うとともに、夜間の臭気測定結果、賀露地区自治会が継続的に実施しておられる臭気調査結果などを資料として総合的に判断された結果、A区域が住居地域であることを考えれば、住民の安心・快適な生活のため臭気指数を15から14に強化すること、見直しの施行時

期は平成29年7月1日からが適当であるという答申を受けました。また、規制基準を14に強化すればよいというだけの問題ではなく、においが改善されていかななくてはならないということで、3点の附帯意見が出されました。

1つ目として、「年々臭気が減っていることから、ジェイエイ畜産としても前向きな改善を行っているという評価できるが、今後も引き続き改善に向けての不断の努力が必要と考える。特に夜間の臭気について原因解明及び対策を強化すべきである。また、夜間の臭気測定を引き続き実施されたい。」、2つ目として、「今後も鳥取市の臭気測定にあたり、賀露町内会の意見を取り入れるとともに、自治会の臭気調査を引き続き尊重すべきである。」、そして3つ目として「賀露自治会、ジェイエイ畜産、鳥取市の三者による臭気対策会議を開催し、今後も現状を正しく認識し、良好なコミュニケーションに努め、問題解決に向け検討協議を続けるべきである。」とのことです。

今後、審議会から出された答申及び附帯意見に基づき、改善に向けて努力したいと考えています。引き続き、住民の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

(地元意見)

鳥取市として改善に向けて努力するとのことですが、具体的にどういうことをするのか質問します。

(深澤市長)

環境審議会でも4回にわたって議論いただきました。この間、賀露地区の皆様にも現地での確認等についてご協力いただき、本当にありがとうございました。

環境審議会からは、3点の附帯意見をいただきました。審議会の答申として受け止め、しっかりと取り組んでいかなければいけないと思います。具体的には、やはり脱臭装置等を事業者でしっかり整備していただき、臭気をできる限り軽減していただくことが必要だと思います。本市としてもずっと以前から助成措置を行ってきていますが、十分に軽減されてないということですので、今後もいろいろな方法で事業者の取り組み等に支援を行うといったことなどから始めていかなければいけないと考えています。

(地元意見)

これまでの経過を見るとジェイエイ畜産もいろいろ改善されていると思いますが、改善するにも経費が必要です。これに対して、鳥取市として何らかの助成等の取り組みの姿勢があるか聞きたいです。

(深澤市長)

鳥取市として以前にも支援や助成を行っていますが、においの軽減という状況になっていませんので、不十分だと思います。いろいろな方法があり、事業者も検討や研究をされていますので、今後も、より効果的な方法を取り入れていただき、本市としてもできる限り支援を行っていきたいと考えています。

(地元意見)

私は南三丁目の賀露八区に住んでいますが、今年の夏は本当に窓を開けていられないくらい臭かったです。そのような状況の中で、賀露地区は土地を販売していますが、売れずに困っています。この一因に臭気の問題があると思いますが、鳥取市としてどう考えているのか聞きたいです。

(深澤市長)

西浜土地区画整理事業の保留地に関してのご質問だと思います。私も、売れ行きに臭気問題が影響していると考えています。保留地の販売促進についても臭気の軽減は必要だと思いますので、本市としても軽減の取り組みに努力していきたいと思っています。

(地元意見)

1週間ほど前の日本海新聞にも、臭気指数15が14になったという記事が掲載されていました。

15が14になると、行政の取り組みや補助の面でどのような意味があるのでしょうか。

(環境下水道部長)

感覚的なことで分かりづらいと思いますが、実際に指数が厳しくなったことで、今までの状態ではだめですよということをジェイエイ畜産に訴えることができます。「今まで以上の対策を講じていただきたい」といった指導をしていきたいという思いもあり、指数を厳しくしたということです。

(地元意見)

ジェイエイ畜産北側の辺りの一番臭気が強いのですが、そこに定置式の測定器を置くことはできないのでしょうか。今までは、あるポイントを見つけてよくにおう、におわないと測定していましたが、それには個人差や風向きなどが影響します。この問題については、ジェイエイ畜産北側の臭気が一番強い、しかも夜間の臭気が強いということまで特定されているのですから、定置式の測定器を設置することにより、ジェイエイ畜産も賀露地区も市も、同じ共通のデータに基づいて現状認識ができるようになるのではないのでしょうか。

ジェイエイ畜産は営利企業ですから、改善しなさいと言われて対応できる状況ではないと思います。ただ、臭気指数が15から14に修正されたことで随分変わるとの回答ですので、測定器を設置するなど、もう一歩進んだ考えが鳥取市にないのかということが聞きたいです。

(環境下水道部長)

臭気指数については、例えばアンモニアがいくらといった数値によるものではなく、人の感覚的な部分があります。また、定置式では、風向きや気温の状態などの気象条件が非常に影響します。例えば、測定していて自動車が通行しただけでもにおいが変わるなど、非常に敏感ですので、現時点では定置式の測定器を設置することは難しいと考えています。

(深澤市長)

以前は、物質、例えばアンモニア等がどの程度の濃度でどれくらいの量があるかということ、臭気の一つの目安にしていた時代もありましたが、人の感覚と必ずしも一致していないような部分があり、人の嗅覚に近いようなものによって臭気指数を定めることになりました。そのため、常時同じ所を測定し続けるのは少し難しい状況もあります。

(地元意見)

行政から見て、この指数はジェイエイ畜産に対する拘束力がある数値なのでしょうか。

(環境下水道部長)

実際に、10月に実施した夜間調査の結果、臭気指数が15を超えていたため、ジェイエイ畜産に対し、1か月以内に対策を講じて結果を報告書にして提出するよう指示しているところです。

(深澤市長)

昭和46年に施行された悪臭防止法に基づく規制ですので、拘束力があります。指数は単なる指標ではなく、臭気軽減を達成していただかなければならないということです。

(地元意見)

ジェイエイ畜産も企業なので、対策を立てようと考えてもなかなか大変だと思います。打てる手は打ったが、効果が出てこないということにならないよう、風向きやにおい、時間帯などいろいろある中で、打つ手として何が一番効果的なのか知りたいです。臭気指数15が14になり、相当厳しくなりましたので、行政も「指導した」、「勧告した」ではなく、もう一歩踏み込んで、ジェイエイ畜産とともに学びながら取り組みを進めていかなければならないと思います。

(深澤市長)

非常に重要な部分だと考えています。ジェイエイ畜産にも事業者として取り組んでいただかなければいけません、直ちに改善することは難しいので、少し期間を置いて平成29年7月を期限とし、その間に取り組んでいただくことにしています。

何よりも、規制して「臭気軽減を達成してください」といった一方通行ではなく、どのような方法があるか、どうすれば軽減が達成できるのかなど、我々も一緒にしっかり取り組んでいくことが必要だと考えています。

7 市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

(地元意見)

中核市に移行すると、約2,500の業務が鳥取市に移譲されると聞きましたが、それだけの業務が増えると、人員が必要になると思います。大きな市を目指しているのですか。私は、民間に委託できるものはできるだけ民間に委託してほしいと思います。民間も仕事がなく困っています。

(中核市推進局次長)

中核市移行に伴い、2,500余りの事務が県から移譲されます。

鳥取市は大きな市を目指すのかとのご質問ですが、決してそういうことではありません。ただ、それ相応の人員配置は必要であると考えています。決して過大に配置するわけではありませんが、必要な人員については県に協力をいただくなど、人員は確保していきたいと考えています。

中核市に移行すると保健所を設置する必要があります。保健所には検査業務があり、その部分については必要な範囲で民間委託を検討しています。

(地元意見)

中核市移行は願ったりかなったりで、保健所等が移譲されて住民へのサービスが行き届いていくとのことですが、そうすれば人員が必要になり、教育もしなければいけなくなります。ところが、鳥取市は人口減少が進行しています。

「人員が必要になる」ことと、実際に人口が減少していることについて、どうバランスを取っていこうと考えていますか。

(深澤市長)

大変難しい質問をいただいたように思います。

まず、中核市ということで2,500以上の事務が鳥取県から鳥取市に移譲されます。それらの事務をきちんと進めていくには体制を整備する必要があります。現時点では専門職を含め、約75名増加しなければいけないと考えています。

一方、人口減少が全国で進行しており、鳥取市においてこれ以上人口が減少しないよう、今、手を打っていく必要があります。我々の世代というよりむしろ次の世代、またその次の世代のために、今、効果的な取り組みをしていく必要があると考えており、その一つとして中核市移行という選択があるのだとご理解いただきたいと思います。

住民サービスをさらに便利なものにして充実を図っていくこと、そして、鳥取市はもとより山陰東部圏域の中心市として機能していく役割となることが求められています。この圏域を含め人口がこれ以上減少しないような取り組みをしていくためにも、都市としての機能、役割が果たせるような体制を整えていくことが、中核市移行の一つの大きな理由でもあります。

日本の人口減少については、現在、非常に大きな変化が起こっています。日本の人口は2008年に1億2,806万人となりピークを迎えました。これは、3,330万人だった人口が140年かけて増加したものであり、1年に67万7千人程度、つまり鳥取県の人口より約10万人多い程度の人口が毎年増加し続けたこととなります。2008年にピークを迎えた日本の人口は、現在は急激に減少しています。100年後には半分程度になるとの推計もされています。そうなっては大変だとのこと、現在、全国の地方自治体が一所懸命頑張っています。これがよく言われる地方創生の取り組みです。鳥取市としても、人口が減少し続け活力が失われたまちなにならないよう、真剣に取り組んでいく必要があると考えています。その取り組みの一つが、中核市移行であるにご理解いただければありがたいと思います。

(地元意見)

都市計画マスタープランは、将来的に人口が減少するから町内会などを集約していこうという想定ですか。

鳥取は人口が少ないですが、広い土地があります。私は常々、全国からできるだけ高齢者を集め、高齢者が住みよい県にしてはどうかと考えていますので、都市計画マスタープランをもう少し住民が安心できるようなプランにしてほしいと思います。

賀露には鳥取港があり、多くの観光客が来られる重要な地区だと思えます。市としても、もう少し賀露地区に力を注いでほしいと思います。

(都市整備部長)

都市計画マスタープランは、決して町内会の集約などを目指しているものではありません。人口はどんどん減少していますが、住みなれた地域に住み続けられるようなまちづくりを目指そうというものです。特に商業施設や病院などの民間事業者は、周辺に一定の人口があって初めて経営が成り立つということもあり、人口減少とともにサービスが薄れていくこともあるかもしれません。そこにどう対応していくかということで、今後は、住民の皆様がサービスの受け手となるだけではなく、サービスの提供側になるような仕組みづくりも必要になってくると考えており、市としてもそういったことに対して支援していきたいということです。

賀露地区には港湾があり、都市計画マスタープランの中では賀露地区の特性を踏まえ、「水産拠点」として位置付けています。鳥取港の活用による産業振興やマリンピア賀露との交流人口なども踏まえたまちづくりを、今後も継続して進めていこうと考えています。

(深澤市長)

鳥取市には広い土地があるので、全国から高齢者に来て住んでいただき、もっと住みよい県、まちにしてはどうかという趣旨の質問をいただいたように思います。本市では、鳥取市創生総合戦略の「にぎわいにあふれ安心してくらせる“まちづくり”」の基本目標として、移住定住者数を1, 100世帯、2千人以上と掲げています。これは、平成27年度から31年度までの5年間に、鳥取市に1, 100世帯以上、2千人以上の方に移住定住していただきたいという目標です。

鳥取市は、この戦略に先駆け、平成18年9月に移住定住専用相談窓口を設置しています。今年7月には、取り組み開始以降の移住定住者が2千名を超えました。そのうち6割以上が30歳代までの方ということで、比較的若い世代の方が鳥取市を選んで住んでくださっています。特に、去年は移住者の8割以上が若い世代の方であり、非常に住みよい地域であるという評価をいただいていると思います。高齢者だけではなく、若い世代の方も鳥取市に移住していただきたいと思えますし、地元に住んでいる我々も、鳥取市は住みやすいまちだと感じられるようなまちにしていかなければいけないと思います。

賀露地区に力を注いでほしいというご意見もいただきました。賀露地区はもとより、この鳥取市がそのようなまちになるように、一所懸命頑張っていきたいと思えますので、どうぞよろしくお願ひします。

(地元意見)

ごみ袋の価格が高いので、少し安くないかと思えます。価格が安くないであれば、枚数を増やしてほしいです。

(深澤市長)

同様のご意見はたくさんいただきますので、私も少し安くないかとの思いがあり、環境審議会に諮問し、審議していただきました。しかし、現行の手数料を据え置くとの答申をいただきましたので、これに従い、当面は現行の価格としたいと思います。よい回答ができず大変申し訳ありませんが、ご理解ください。

ごみ袋の収益は、環境問題等に関する様々な取り組みに充てています。できる限りごみを少なくして、持続可能な循環型のまちになるよう、皆様からご負担いただいたごみ袋の手数料は有効にさせていただきます。

(地元意見)

6月29日に、自治会長と神社の宮司、市議員と私とで市役所に出向き、深澤市長と都市整備部長に面談しました。内容は、かろいちの南東に「米倉（よなぐら）」という小高い丘があり、そこに神社の氏子所有の土地があるのですが、そこを無償で提供するので展望公園をつくってもらえないかという相談です。すると反対に、鳥取砂丘コナン空港からかろいち方面に直結する道路ができるので、観光に力を入れ、展望台ということで計画の方がよいのではないかと提案をもらいました。地区としては、もちろんそれも考えているが、防災機能も兼ねた多目的の展望台を考えているのだと話しました。

しかしその後、子ども達が遠足であまり賀露に来ないと聞きました。いろいろな施設はあるが、多くの人が弁当を食べる見晴らしのよい場所がないとのこと。小さい子どもはかっこ館に来ますが、たいていはおじいちゃんやおばあちゃんと連れだって少人数で来る程度です。ぜひ、遠足に来られるような広場をつくってほしいと思えます。

観光でもたくさん来ますので、確かに観光面に力を入れていただき、検討してほしいと思えます。その後、少しは具体的に考えてもらっているでしょうか。

(都市整備部長)

具体的などころには、まだなっていません。お越しになられた時に説明させていただいたのは、公園を整備するについても、例えば、吉岡温泉では温泉会館の建て替えを契機にまちづくりの計画を作成して吉岡温泉の復活を目指しておられますが、そういった観光の切り口からのまちづくりや、子どもの遠足ということで地域の環境面からのまちづくりなど、まちづくりの観点から地域で計画をもんでみていただきたいという趣旨でした。

そのような趣旨でしたので、申し訳ありませんが、現時点で地域の皆様との具体的なやり取りというのはまだできていません。

(深澤市長)

米倉（よなぐら）は、私も以前から承知しています。さかのぼって考えてみると、西浜

土地区画整理事業の計画を地元の皆様と一緒に策定した時に、この公園の構想がありました。

私はそれからずっと覚えており、いつか取り組んでいかなければならない課題として認識しています。特に、この米倉（よなぐら）は神社所有地であり、吉備真備公ゆかりの歴史ある土地ですので、それを生かしたまちづくりは、今後できればよいと思っています。

1つチャンスがあります。鳥取県は現在、鳥取砂丘コナン空港からかろいち方面までを最短距離で結ぶ道路の計画を、具体的に進めていこうとしています。また、山陰近畿自動車道のミッシングリンクになっていた福部インターチェンジと、おそらく鳥取西インターチェンジになると思いますが、その間をつなぐ道路も現在計画段階にありますので、この道路も砂丘方面から賀露に近い方を回るようなルートも大いに考えられます。この計画はまだ始まったばかりですが、もし実現すれば、交通アクセスも近い将来非常に良くなり、ますます観光客を集客していく時代がやってくると思います。

そういった好機を捉え、この公園も具体的な整備を進めていくことができればよいのではないかと考えています。今すぐ取りかかるということにはなりません、構想を持ちつつ、実現に向けて努力していきたいと思っています。

(地元意見)

鳥取砂丘コナン空港からかろいち方面に道路がつきます。イオン鳥取北店の前の通りから賀露南大橋を通る道路がありますが、その道路が途中で止まっています。せっかく工事するのだから、延ばしてつなげればアクセスがよくなるのではないかとと思うのですが、つなげなかったのは何か理由があるのでしょうか。将来つなげるのであれば、一度につなげた方がよいように思います。

(都市整備部長)

ツインポート構想として、空の駅と港を一体化して機能アップしようと、鳥取県が道路整備に向かっています。この件については、賀露地区の皆様大変お世話になっています。

市道晩稲飛行場線道路の整備が三叉路までで止まっているので、延伸してはどうかのご提言だと思います。福部インターチェンジから山陰道、鳥取道等への接続に関する検討が始まっており、その道路がどこに接続するかによって交通の流れも随分変わってくると思います。本市としては、国の高速道路のルートや計画を見据えながら、必要性、時期等を検証していきたいと考えているところです。

実際に県の道路（仮称県道鳥取空港賀露線）ができれば、この地域を幹線的な道路がぐるりと周遊することになりますし、市道賀露幹線が真ん中を走っていますので、自動車の通行も円滑になると思っています。



(地元意見)

いじめの問題についてです。先日報道で、小学生がいじめで100万円以上を支払った問題で、教育委員会がおごりだと説明していました。あの年齢で、100万円以上もの金額がおごりでしょうか。

湖東地区で、同じようなことがありました。母親が病院に運ばれたのですが、栄養失調だったそうです。詳しく聞いてみると、自分の子どもがいじめを受けていて、友達から金を持ってこいと言われたら、母親は子どもに小遣いをたくさん渡していたそうです。その繰り返しで、何か月もカップ麺ばかり食べて栄養失調になり、倒れたとのことでした。

本日の地域づくり懇談会に教育関係の部署が出席していたら非常によかったのですが、出席していないようです。この鳥取市でいじめ問題が発生しないよう、市役所は一丸となってください。

(深澤市長)

大津市で発生したいじめ問題をきっかけに、市町村長と教育委員会が一緒になって、いじめ問題等も含めてしっかり取り組むようにとの法律改正がありました。昨日、その改正から、第1回鳥取市総合教育会議が開催されました。

本日は教育委員会が出席していませんが、鳥取市にいじめがないよう引き続きしっかりと取り組んでいきたいと思っておりますし、市役所だけで取り組むのは難しいと思っておりますので、地域の皆様にご協力いただき、いじめがないよう、そしていじめをなくしていけるよう、一緒に取り組んでいきたいと思っております。

(地元意見)

私は、賀露七区に住んでいます。賀露地区内で砂を採取している所があるのですが、これは工事期間があるのでしょうか。また、作業完了後には埋め戻しをしたいと思います、土壌汚染等のチェック体制はあるのでしょうか。

(都市整備部長)

これらは、鳥取県の許認可になります。例えば、山を削って真砂土を採集するような事業については法律に基づく許可が必要ですので、各事業者は許可をとって事業を進めておられます。鳥取県としても、最終的にどういった埋め戻しを行うのかといったことも含めてチェックを行い許可しています。

また、事業完了の際にはあらためて、申請どおりに事業が遂行されたかといったことも含め鳥取県が確認しています。

8 市長あいさつ

一言お礼のご挨拶を申し上げます。

長時間にわたり熱心にご質問、ご意見、ご提言等をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

養鶏場の臭気軽減の問題は、平成18年7月だったと思いますが、ジェイエイ畜産と賀

露地区の皆様、そして我々鳥取市の三者が初めて協議をする場を持ちました。以来、いろいろな取り組みを行っていますが、まだまだ十分な臭気軽減に至っていない状況にあります。このたび臭気指数を1.5から1.4に見直すとの答申が出ましたので、これを遵守すべく、事業者のご理解をいただきながら鳥取市も一緒になって取り組んでいきたいと思っています。十分でないところもありますが、引き続きしっかりと取り組んでいきたいと思えます。

また、中核市移行、都市計画マスタープラン等についてもご質問をいただきました。これらは、将来を見据えて鳥取市がこれから発展していくことと、他にない魅力を備えたまちになることへの一つの大きな取り組みです。

米倉の公園や道路整備、いじめ問題の解消等についてもご意見をいただいたところです。いろいろな課題がありますが、今後も市役所が一丸となり、皆様と一緒に取り組んでいきたいと思えます。

長時間にわたり、熱心にご参加いただきましたことに心から感謝申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。